



# 五小だより

11月号

令和7年11月4日  
国分寺市立第五小学校  
042-322-0045  
校長 齋藤 晃

## 「ふれ合い」を通して

校長 齋藤 晃

10月のある休みの日、夕方になって急に小学校1年生になる息子と自宅近くの野川公園へ出かけることになりました。私と「お相撲がしたい。」というのです。保育園の頃に私としたお相撲が楽しかったことを思い出したようです。心地よい風が吹くようになった公園の芝生に着くと、息子は早速私に向かって飛び掛かってきました。私も時折芝生の上に転がって負けて見せます。柔らかい芝生の上に転がされても、息子は何度も何度も私に向かって「はっけよーい」。なかなか終わりが訪れません。

急な息子の要求に応え公園まで出かけることにしたのは、教員になりたての頃に読んだ新聞の記事が心に残っていたからです。内容は、『宇都宮市内のある幼稚園で、朝の活動に先生も一緒になって、スキンシップいっぱい「じゃれつき」を取り入れたところ、子どもたちのぼんやりやイライラ、けんかが解消、学びの時間の落ち着きと集中を生んだことが報告された。』ということでした。また、大学教授の「小学校の年齢では、抑制が利かないくらい興奮する過程が脳の成長にとっては必要」とのコメントも載っていました。

私が小学生のころは毎日のように「じゃれつき」や取っ組み合いの遊びを毎日していました。動物の子どもにも同様の行動は見られます。スキンシップは、子どもたちの成長過程の中で、時には「痛い」と感じる経験も含めて相手への力加減を知る大切な経験ともなります。しかし、時代は令和となり、コロナ禍の影響も大きく、子どもたちを取り巻く生活環境は大きく変わりました。子どもたちの生活から、スキンシップを通じて興奮するほどの遊びが随分少なくなったと感じます。小学校の体育では平成20年度の学習指導要領改訂以降、「体づくり運動（遊び）」の「体ほぐし」や「力試し」等で、スキンシップを含む運動を通して互いの心や体の変化に気付くことがねらいの一つとされています。

また、子どもたちは「心の力加減」の成長過程にもあります。子どもが集う学校では、未熟ゆえ友達との関わり合いにおいて、ついやりすぎてしまう、「嫌だ」の気持ちがうまく相手に伝えられない等々、気持ちがすれ違い、時にはトラブルやいじめ（※法令上のいじめ）につながってしまうこともあります。※「法令上のいじめ」では「社会通念上のいじめ」に加え、意図せずに行った行為でも相手が心身の苦痛を感じている場合は「いじめ」ととらえます。

学校は子どもたちが友達との関わり方、心の力加減を学ぶ場でもあります。本校でも「思いやり」を教育目標の一つに掲げ指導を行っています。これからもご家庭、地域の皆様にご協力いただきながら、必要な場合は大人も関わり、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努めるとともに、子ども同士の心がふれ合う経験を大切にしていこうと思います。

最後になりましたが、肌寒さが急速に増した今日この頃、保護者、地域の皆様におかれましてはお体を大切にされ日々お過ごしくださるようお願いいたします。また、令和7年度後半を迎える本校の教育活動に、

### 令和7年度国分寺市教育委員会児童生徒表彰の被表彰候補者の推薦について

「国分寺市教育委員会児童生徒表彰規定」に基づき、児童の表彰を実施します。以下の項目にあてはまる推薦児童がいる場合は、副校長までお知らせ下さい。

- 東京都規模以上の大会、審査会、選考会において入賞
- 人命救助、応急手当、初期消火活動等により事故を未然に防いだもの
- ボランティア活動
- 全国大会、関東大会その他これらに準ずる大会、コンクール等に出場したもの

それぞれの項目に推薦基準がございますので、ご連絡いただきましたら詳細をお伝えいたします。